

## OpenAI Deep Research

了解しました。住友電工が構築したグループ全社規模の RAG 基盤に関して、技術的な詳細、導入の背景、期待される効果、関連企業、公式発表やニュース記事の情報など、包括的に調査します。

調査結果がまとまり次第、ご報告いたします。

# 住友電工グループ全社規模 RAG 基盤の詳細調査

## 1. 技術的な詳細

### QuickSolution®と生成 AI の連携手法

住友電工が構築した RAG (Retrieval-Augmented Generation) 基盤では、エンタープライズサーチ製品「QuickSolution®」を介して社内情報と生成 AI (ChatGPT など) を連携させています ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#)) ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#))。具体的には、ユーザの質問に対してまず QuickSolution®が社内の関連文書を検索し (全文検索)、抽出された内容をプロンプトとして生成 AI に送信することで回答を生成します ([ChatGPT と連携して社内の情報に質問応答できる企業内検索システムを販売開始 ~ QuickSolution®が RAG による質問応答機能を提供 ~ | エンタープライズサーチ QuickSolution](#))。この RAG 連携により、生成 AI 単独ではアクセスできない社内データを活用した高度な質問応答が可能になっています ([ChatGPT と連携して社内の情報に質問応答できる企業内検索システムを販売開始 ~ QuickSolution®が RAG による質問応答機能を提供 ~ | エンタープライズサーチ QuickSolution](#))。QuickSolution®は 2024 年 4 月に ChatGPT 連携オプションを製品化しており、OpenAI の ChatGPT や Azure OpenAI Service、Google の生成 AI (Gemini/Vertex AI)、Anthropic の Claude など主要な生成 AI サービスとの連携に対応しています ([生成 AI 連携\(RAG 対応\) | エンタープライズサーチ QuickSolution](#))。この連携は In-Context Learning (文脈内学習) の形で行われ、LLM (大規模言語モデル) 側にデータを学習・蓄積させない設計になっているため機密情報漏洩のリスクを低減しています (

[P 全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電気情報システム株式会社のプレスリリース](#)。  
[ス](#)。

## 検索技術の仕組み

QuickSolution® 自体は住友電気情報システム株式会社が開発した純国産のエンタープライズサーチであり、20 年以上の検索エンジン研究開発の蓄積により**高速・高精度な全文検索**を実現しています ([生成 AI 連携\(RAG 対応\) | エンタープライズサーチ QuickSolution](#))。社内のファイルサーバや文書管理システム、社内 Web サイトなど**様々な社内システムを横断してファイルの中身まで検索**できる点が大きな特徴です ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電気情報システム株式会社のプレスリリース](#))。例えば、未 OCR の画像 PDF や写真については検索時に自動で OCR 処理を行い、画像に含まれる文字も検索対象としています ([生成 AI 連携 \(RAG 対応\) | エンタープライズサーチ QuickSolution](#))。また日本語の意味を解析するセマンティック検索等の高度な機能も備えており、ユーザの意図に沿った検索が可能です ([生成 AI 連携\(RAG 対応\) | エンタープライズサーチ QuickSolution](#))。大規模データの検索に強く、**数百 TB 規模のデータでも 2~3 秒程度**で目的の情報を高速かつセキュアに検索できるとされており ([エンタープライズサーチ QuickSolution - 【キーマズネット】 IT、IT 製品の比較・事例・価格情報サイト](#))、数百万件にのぼる文書を対象に必要な情報を迅速に絞り込むことができます。こうした高性能な検索基盤があることで、RAG においても適切な社内知識の抽出が可能になっています。

## RAG の適用方法

本基盤では RAG 技術を用いて検索と生成 AI を組み合わせています。RAG (検索拡張生成) とは、LLM (生成 AI) の外部から情報源を検索し必要箇所を抽出、その内容に基づいて LLM に回答を作らせる手法を指します ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電気情報システム株式会社のプレスリリース](#))。住友電工のシステムではユーザの質問を受けた QuickSolution® がまず関連性の高い社内ドキュメントを探し出し、その抜粋や要点を生成 AI (ChatGPT 等) に入力します ([ChatGPT と連携して社内の情報に質問応答できる企業内検索システムを販売開始 ~ QuickSolution® が RAG による質問応答機能を提供 ~ | エンタープライズサーチ QuickSolution](#))。生成 AI は与えられた社内情報を元に回答文を作成し、ユーザへ返します。この一連の流れにより、ユーザは**対話形式**で社内ナレッジに質問ができるようになっています (

いった追問いかけもでき、会話を深掘りしていくことが可能です（[生成 AI 連携\(RAG 対応\) | エンタープライズサーチ QuickSolution](#)）。また回答に利用する文書をユーザが選択・除外する機能や、回答の根拠となった文書へのリンク表示機能も備えています（[生成 AI 連携\(RAG 対応\) | エンタープライズサーチ QuickSolution](#)）。これにより、ユーザは生成 AI から得られた回答の裏付けを確認しつつ、必要に応じて回答精度を調整することができます。

## システムアーキテクチャ

[\(住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 ~QuickSolution®の高精度検索 × 生成 AI 連携で社内ナレッジを有効活用~ | エンタープライズサーチ QuickSolution\)](#)

[住友電工グループ RAG 基盤の構成図](#)

住友電工の RAG 基盤は、QuickSolution®を中心としたハイブリッド構成になっています。図に示すように、右側には社内の各情報源（ファイルサーバ、社内 Web、文書管理システム「楽々 Document Plus」等）があり、合計で数百 TB 規模（ファイルサーバ約 400TB、社内サイト 29 サイト・5 万ページ、文書管理システム約 180 万文書）のデータが対象となっています（[住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#)）。QuickSolution®検索基盤はこれら複数のリポジトリからユーザ権限に応じて横断検索を行い、関連文書を抽出します（[住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#)）。抽出結果は QuickSolution®上の生成 AI 連携モジュールを介して、左側に示す ChatGPT などの生成 AI サービスに送信されます（同社では ChatGPT を安全に利用できる社内環境を構築済み）（[住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 ~QuickSolution®の高精度検索 × 生成 AI 連携で社内ナレッジを有効活用~ | エンタープライズサーチ QuickSolution](#)）。生成 AI は受け取った社内情報を元に回答を生成し、ユーザに返答します。この一連の処理はクラウド上の LLM を利用しつつも、**検索インデックスやデータはオンプレミス環境に保持される形です**（[住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 ~QuickSolution®の高精度検索 × 生成 AI 連携で社内ナレッジを有効活用~ | エンタープライズサーチ QuickSolution](#)）。そのため、既存のファイル保管場所を移動・加工することなくシステム導入が可能で、数百 TB にも及ぶ大容量データを扱う RAG 基盤を約 2 週間という短期間で構築完了できています（[住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#)）。またユーザ管理やアクセス制御は QuickSolution®が企業内認証基盤と連携して行い、ユーザごとに閲覧権限のあるデータのみを検索・利用可能です（

ラビリティを備えています（[住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#)）。利用希望者は申請によりアクセス権を得て、社内ポータル経由などでこのシステムに問い合わせを行うことができます。

## RAG 基盤の特長

本 RAG 基盤には技術的に以下の 3 つの特長があります（[住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#)）。

1. **高精度な回答:** QuickSolution®の高精度検索で抽出した信頼できる社内情報だけを生成 AI に渡すため、回答の正確性が高くなっています。生成 AI が社外の誤情報に影響されることなく、社内ナレッジに基づいた根拠ある回答を返す仕組みです。
2. **ユーザ権限の考慮:** QuickSolution®はユーザのアクセス権限に基づいて検索結果をフィルタリングできるため、権限外の情報が回答に使われないようになっています。これにより部署横断でデータを集約しても、各ユーザが閲覧可能な範囲内で安全に回答を得られます。
3. **セキュアな運用:** 質問内容や社内データを外部の生成 AI に学習させない設計になっており、機密情報や個人情報が外部に漏れるリスクを回避しています。送信された社内情報は一時的な文脈として扱われ、生成 AI 側に蓄積されないため安心して利用できます（[住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#)）。

以上のように、精度・権限・セキュリティの観点で企業内で安心して使える生成 AI 基盤となっている点が技術的ハイライトです。

## 2. 導入の背景

### 導入の目的と経緯

住友電工がこの RAG 基盤を導入した主な目的は、社内ナレッジの有効活用による業務効率化と DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進です（[住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#)）。きっかけの一つとして、2022 年末に ChatGPT が登場したことで生成 AI 活用の重要性が広く認識され始め、住友電工でもその流れに乗って積極的に生成 AI の導入検討が進められました（[住友電工が約 2 週間で構築した大規模 RAG 基盤の全貌](#)）。

[とその効果 - 大阪 Days ニュース](#))。まず 2023 年 10 月には、社内から安全に ChatGPT を利用できる環境をグループ全社に展開しています ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 ~QuickSolution®の高精度検索×生成 AI 連携で社内ナレッジを有効活用~ | エンタープライズサーチ QuickSolution](#))。この環境整備により社員は ChatGPT を業務で試用できるようになり、その利用が広がる中で「**社内の情報も ChatGPT で活用したい**」という声が各部門のユーザから数多く寄せられるようになりました ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#))。要するに、汎用の ChatGPT だけでは社内ドキュメントやナレッジを検索・参照できないため、**社内情報に基づいて回答できる生成 AI が必要**だという課題が浮き彫りになったのです ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#))。この課題を解決し社内情報資源を最大限活かすことが、RAG 基盤導入の直接的な目的となりました。

## 社内ナレッジ活用の課題

導入前まで、住友電工社内には大量のドキュメントやデータ(ファイルサーバ上の資料、社内ポータル記事、各種報告書など数百 TB 規模)が蓄積されていましたが、**必要な情報の探索や活用に手間がかかる**という課題がありました。従来は QuickSolution®によるキーワード検索基盤が存在したものの、ユーザ自身が検索結果から該当箇所を読み解いて情報を整理する必要があり、情報収集に時間を要するケースもあったと考えられます。特に ChatGPT のような対話 AI が登場して以降、ユーザは「質問すれば AI が答えをまとめてくれる」体験を知ったため、社内でも同様にナレッジに直接質問して回答を得たいというニーズが高まりました。しかし一般の ChatGPT では社内データにアクセスできず、そのまま社外 AI に機密情報を入力すれば情報漏洩のリスクもあります。このように**社内知識を安全かつ的確に活用する手段が欠如**していたことが大きな課題でした ([ChatGPT と連携して社内の情報に質問応答できる企業内検索システムを販売開始 ~QuickSolution®が RAG による質問応答機能を提供~ | エンタープライズサーチ QuickSolution](#))。また情報が複数のシステムや部署に分散しナレッジがサイロ化している問題も指摘され、必要な情報に辿り着くまでの障壁となっていました。そこで既存の検索基盤 QuickSolution®に生成 AI を組み合わせ、誰もが自然文で質問するだけで社内の膨大なデータから答えを引き出せる環境を構築することで、これら課題の解決を図りました ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#))。

## 競争力強化の戦略

住友電工は本 RAG 基盤の導入を競争力強化のための DX 戦略の一環と位置付けています ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 ～QuickSolution®の高精度検索 × 生成 AI 連携で社内ナレッジを有効活用～ | エンタープライズサーチ QuickSolution](#)) ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 ～QuickSolution®の高精度検索 × 生成 AI 連携で社内ナレッジを有効活用～ | エンタープライズサーチ QuickSolution](#))。社内に蓄積された知見・情報資産を最大限に引き出し活用することは、製品開発や業務改善のスピード向上、意思決定の高度化につながり、企業競争力の源泉となります。公式発表でも「情報探しの効率化と社内ナレッジの効果的な利用を推進することで、競争力のある組織を作ることを目指す」と述べられており ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#))、ナレッジ活用基盤として RAG を全社展開することが戦略的投資と捉えられています。また導入の迅速さ(2 週間という短期間)は、トップダウンでデジタル施策をスピード感持って展開する住友電工の姿勢の表れでもあります ([住友電工が約 2 週間で構築した大規模 RAG 基盤の全貌とその効果 - 大阪 Days ニュース](#))。今後はこの基盤を土台にさらなる生成 AI 活用を進め、データソースの拡充など継続的な改善を図る計画です ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 ～QuickSolution®の高精度検索 × 生成 AI 連携で社内ナレッジを有効活用～ | エンタープライズサーチ QuickSolution](#))。これにより組織全体のナレッジ循環を活性化し、新たな価値創出や業務革新を促進していく狙いがあります。

### 3. 期待される効果

#### 業務効率化の具体的な例

([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 ～QuickSolution®の高精度検索 × 生成 AI 連携で社内ナレッジを有効活用～ | エンタープライズサーチ QuickSolution](#)) *RAG 基盤の活用事例*

構築された RAG 基盤によって、従来は時間のかかっていた社内情報の調査・整理が対話一つで可能となり、業務効率化に直結する事例が生まれています ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#))。例えば、「次年度予算の情報をまとめて」といった問いに対しては、関連する予算資料(PDF)群から総額や各費目の金額を抽出して回答し、該当資料へのリンクも提示します。「〇〇加工の失敗事例を教えて」といった質問には、過去のトラブル報告書やプレゼン資料から該当事例(担当者名や原因・対策など)の要点を要約して返答し、その出典となる社内資料(PPTX)を参照できるようにします。「社内ルール(海外出張手当)について教えて」という問い合わせには、社内規程ドキュメントから旅費・

手当の支給条件や金額体系を抜粋して説明し、規程の原文ファイル(DOCX)を参照可能な形で提示します。これらは公式発表資料でも紹介された利用シーンの一例であり、RAG 基盤により**必要情報の収集・要約・提示が自動化**されていることを示しています ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#))。担当者に個別に問い合わせたり大量の文書を読み込んだりしていた作業が短縮され、回答に関連する一次情報もリンクで確認できるため信頼性も担保されています。結果として、調査や資料作成に費やす時間を大幅に削減しつつ質の高いアウトプットを得ることができるようになり、日常業務の生産性向上につながっています ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#))。

## 知識活用の向上

RAG 基盤の導入によって**企業内の知識活用度は飛躍的に向上**すると期待されています。従来は埋もれていた有用な社内資料やナレッジが、社員からの自然言語の質問によって呼び出され活用される機会が増えるためです。社員は必要な情報を探す際に複数のシステムを横断検索したり、人脈を頼って聞き回ったりする必要が減り、一つの対話インターフェースから**社内のあらゆる知見にアクセス可能**になります ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#))。これは社員一人ひとりが社内の“**生きたデータベース**”を相互に共有するような効果を持ち、属人的だったナレッジも組織全体で再利用されやすくなります。例えばベテラン社員の作成した資料から新入社員が容易に教訓を得られるなど、**知識の伝承**やスキル継承にも貢献すると考えられます ([エンタープライズサーチ QuickSolution - 【キーマンズネット】 IT、IT 製品の比較・事例・価格情報サイト](#))。また多忙な専門家層にとっても、繰り返し質問対応する負担が減り、その分コア業務に専念できるメリットがあります。住友電工ではこの基盤により**対話形式で社内情報を収集できる環境**を整備し、全社員のナレッジ活用を底上げすることで生産性向上を実現したと述べています ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 ~ QuickSolution®の高精度検索 × 生成 AI 連携で社内ナレッジを有効活用 ~ | エンタープライズサーチ QuickSolution](#))。

## 企業全体のナレッジマネジメントへの影響

この RAG 基盤は住友電工グループ全体の**ナレッジマネジメント基盤**として大きな影響を及ぼしています。膨大な社内情報資産を一元的にインデックス化し、生成 AI を窓口として利活用する仕組みは、いわば社内の「**知識検索エンジン+AI アシスタント**」が誕生したようなものです。これにより社内情報の**統合的な可視化とアクセス性**向

上が進み、必要な知識に誰もが迅速に辿り着ける状態が実現しました（[エンタープライズサーチ QuickSolution - 【キーマンズネット】IT、IT 製品の比較・事例・価格情報サイト](#)）。その結果、組織内の情報共有が円滑化し、部門や地域を超えたコラボレーションが促進される効果も期待できます。住友電工は公式発表で、本基盤を最大限に活用して「情報探しの効率化と社内ナレッジの効果的な利用」を推進し、競争力のある組織作りを目指すとして述べています（[住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#)）。つまり RAG 基盤の運用は単なる IT 導入に留まらず、全社的な知識経営のインフラとして位置付けられているのです。今後はデータソースの拡充や機能改善を継続しながら、蓄積されたナレッジを組織の知的財産として有効活用し続けることで、更なるイノベーション創出や業務高度化につなげていく考えです（[住友電工が約 2 週間で構築した大規模 RAG 基盤の全貌とその効果 - 大阪 Days ニュース](#)）。

## 4. 関連企業・パートナー

今回の RAG 基盤構築において中心的な役割を果たしたのは、住友電工のグループ企業で IT ソリューションを手掛ける[住友電工情報システム株式会社](#)です。同社が提供する QuickSolution®が基盤技術として採用されており、製品開発元のサポートのもと短期間で全社検索環境を強化できました（[住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 ~QuickSolution®の高精度検索×生成 AI 連携で社内ナレッジを有効活用~ | エンタープライズサーチ QuickSolution](#)）。住友電工情報システムは自社製品を通じて構築支援を行った立場であり、社内実装に関して特定の外部 Sier（システムインテグレータ）やコンサル企業の名前は挙げていません。つまりグループ内の連携プロジェクトとして、ユーザ企業である住友電気工業（住友電工）とソリューション提供企業である住友電工情報システムが協力し、本システムを構築した形になります（[住友電工が約 2 週間で構築した大規模 RAG 基盤の全貌とその効果 - 大阪 Days ニュース](#)）。一方、生成 AI 側の技術パートナーとしては OpenAI 社（ChatGPT）や Microsoft 社（Azure OpenAI）、Google 社、Anthropic 社といった生成 AI プラットフォーム提供企業が間接的に関与しています（[生成 AI 連携\(RAG 対応\) | エンタープライズサーチ QuickSolution](#)）。QuickSolution®の生成 AI 連携機能がこれら外部の LLM サービスと接続することで成り立っているため、例えば ChatGPT API や Azure OpenAI Service を利用する形で実装されたと考えられます（社内に展開された「安全に ChatGPT を利用できる環境」も Azure OpenAI などの活用によるものと思われます）。もっとも、生成 AI モデル自体のチューニング開発を行ったわけではなく、既存サービスを適切に組み合わせたソリューション導入です。なお共同研究については、本件に関して公表された情報はありません。住友電工情報システムは産学連携も行ってい



ますが(例:生成 AI とは直接関係ありませんが早稲田大学との量子コンピュータ活用研究 ([住友電工と早大、2025 年をめどに配送計画の立案に ... - IT Leaders](#))等)、今回の RAG 基盤構築はどちらかといえば即戦力となる製品・サービスを組み合わせた実装であり、研究開発プロジェクトというより実務的な DX 施策という位置づけです。

## 5. 公式発表・ニュース記事の情報

**公式発表:** 本件は 2025 年 3 月 7 日に住友電工情報システム株式会社よりプレスリリースという形で公式発表されています ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#))。タイトルは「住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 ~QuickSolution®の高精度検索×生成 AI 連携で社内ナレッジを有効活用~」で、その内容は上記で詳述したとおりです。リリースでは、約 2 週間で数百 TB 規模の社内情報を対象とした RAG 基盤を構築し、約 29 万人のグループ社員が対話形式で社内情報を収集できるようになったことが謳われています ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#))。また、ChatGPT 登場以降の社内ニーズの高まりや、QuickSolution®を鍵とした課題解決、そして正確性・権限考慮・セキュリティという 3 つの特長について触れられています ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#))。さらに実際の活用例や、今後の展望(継続的な改善とデータ拡充、競争力ある組織作りへの貢献)についても記載されています ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#)) ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#))。公式発表資料には構成図や具体例の図も含まれており、技術的・効果的なポイントが分かりやすく示されています。

**メディアでの取り上げ:** この発表は PR TIMES などを通じて各種メディアにも配信され、多くのニュースサイトで取り上げられました。例えば、地方経済紙である「あべの経済新聞」や「大阪ベイ経済新聞」などの Web サイトにもプレスリリース情報が掲載されており、「わずか 2 週間で大規模 RAG 基盤を構築」「29 万人規模で利用可能」といった点が見出しで強調されています ([住友電工が約 2 週間で構築した大規模 RAG 基盤の全貌とその効果 - 大阪 Days ニュース](#)) ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 - 大阪ベイ経済新聞](#))。IT 系ニュースサイトでは、「サードニュース (Third-innovation)」が本件の概要と効果を解説する記事を掲載しており、「高精度の回答」「ユーザー権限の考慮」「セキュアな運用環境」の三点を特長として整理するとともに、実際に生産性向上の声が社内から上がっていることを伝えています ([住友電](#)

[工が約 2 週間で構築した大規模 RAG 基盤の全貌とその効果 - 大阪 Days ニュース](#)。また、一部の IT 製品紹介サイトでは QuickSolution®の事例として本件が引用され、\*\*「数百 TB 規模でも 2~3 秒で全文検索し、ChatGPT 連携でナレッジ活用を実現」といった形で製品の強みと合わせて紹介されています ([エンタープライズサーチ QuickSolution - 【キーマンズネット】 IT、IT 製品の比較・事例・価格情報サイト](#))。総じてメディアの論調としては、「大企業が社内情報検索に生成 AI を取り入れた先進事例」\*\*として前向きに報じられており、短期間での構築や全社規模への展開スピードについて評価する声が見られます。また、昨今話題の生成 AI 活用において課題となる正確性や機密情報漏洩リスクに対して、住友電工の RAG 基盤が有効な解決策を示した点も注目されています ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#))。業界内では、同様のアプローチ (社内検索 + 生成 AI) を模索する企業が多い中で、住友電工がいち早く全社レベルで実現したことで、他企業のモデルケースになるとの見方もあります。今後、この成功事例が企業内ナレッジ活用の新たなトレンドとして広がり、RAG 基盤導入の動きが加速する可能性も指摘されています。

参考資料リンク: 公式発表全文は住友電工情報システムの Web サイトおよび PR TIMES 上で公開されています ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 | 住友電工情報システム株式会社のプレスリリース](#))。また QuickSolution®製品サイトでは生成 AI 連携 (RAG 対応) 機能の紹介ページ ([生成 AI 連携 \(RAG 対応\) | エンタープライズサーチ QuickSolution](#)) ([生成 AI 連携 \(RAG 対応\) | エンタープライズサーチ QuickSolution](#)) や、RAG 技術に関する解説ブログ記事なども参照できます。ニュース記事については、PR TIMES 配信記事の転載元である各ニュースサイト (excite ニュース ([住友電工がグループ全社規模の RAG 基盤を構築 \(2025 年 3 月 7 日\) - エキサイトニュース](#))、各地経済新聞 ([住友電工が約 2 週間で構築した大規模 RAG 基盤の全貌とその効果 - 大阪 Days ニュース](#)) 等) や、Third-innovation の解説記事 ([住友電工が約 2 週間で構築した大規模 RAG 基盤の全貌とその効果 - 大阪 Days ニュース](#)) などが詳細を報じています。これらのリンクは以下に示しますので、さらなる情報確認にご活用ください。